

## 7. 千葉県・千葉市

エコタウン名称	千葉県西・中央地域エコタウン			
承認年	平成 11 年 1 月 (千葉市蘇我エコロジーパーク整備事業については平成 14 年 9 月)			
エコタウンの特長	<p>〈県全体〉</p> <p>千葉県では、都市化の進展が著しい本県の西・中央地域を中心に、埋立処分に依存しないリサイクルシステムによる「環境と調和したまちづくり」を目指し、エコタウンプランを策定した。このプランを推進することにより、最新の廃棄物処理・リサイクル技術の開発・導入と、これらの新技術を有する環境産業の集積・育成を進め、地域振興を図る。</p> <p>なお、本エコタウンプランは、千葉市を含む県西・中央地域を施設整備地域として千葉県が主体となり策定するものであるが、蘇我特定地区の「蘇我エコロジーパーク」の整備については、千葉市が主体となって推進するものである。</p> <p>〈上記のうち市実施分〉</p> <p>千葉市では、平成13年10月、JR蘇我駅周辺の既成市街地の再生と臨海部の都市的な土地利用転換による拠点市街地の形成の促進を図るため、「蘇我特定地区整備計画」を策定した。</p> <p>同地区内に定められた「リサイクル機能ゾーン(約40ha)」において、民間主導による環境産業拠点の形成を目指すため、平成15年3月に「蘇我エコロジーパーク構想」を策定。循環型社会の形成を目指した都市型環境拠点づくりについて全体構成とイメージを示し、それを実現するための基本となる施設・主要な機能配置・基本的な展開等の方向づけを行った。</p>			
URL	(千葉県) <a href="http://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/3r/ecotown/index.html">http://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/3r/ecotown/index.html</a> (千葉市) <a href="http://www.city.chiba.jp/kankyo/junkan/haikibutsu/E-index.html">http://www.city.chiba.jp/kankyo/junkan/haikibutsu/E-index.html</a>			
自治体の取組	財政面の支援	例) 補助金、優遇措置、等	(千葉市) 新たに工場等を取得する企業に対し、「千葉市所有型企業立地促進事業補助金」制度あり	
	事業面の支援	例) 独自の認定制度、展示会、商談支援、等	(千葉市) 立地に係る関係機関との協議、許認可等を円滑に行うための支援	
問合せ先窓口	担当部署名	千葉県環境生活物資資源循環推進課 / 千葉市環境局資源循環部廃棄物対策課		
	担当者名	(県)丸山 喬 / (市)齋藤 有紀子		
	連絡先	電話番号	(県)043-223-2760 / (市)042-455-067	
		FAX	(県)043-221-3970 / (市)043-245-5624	
E メールアドレス		(県)e-haiki@mz.pref.chiba.lg.jp / (市)haikibutsutaisaku.ENR@city.chiba.lg.jp		

## 7.1 (株)かずさクリーンシステム

### 7.1.1 事業者情報

名 称	(株)かずさクリーンシステム			
本社住所	〒292-0836	千葉県木更津市新港 17-2		
資本金、出資金	2,000,000 千円			
従業員数	12 人			
設立年月日	平成 10 年			
URL	<a href="http://www.kazusa-cs.co.jp/">http://www.kazusa-cs.co.jp/</a>			
事業概要	4 市(木更津市/君津市/富津市/袖ヶ浦市)の一般廃棄物及び条例により受け入れる産業廃棄物を中間処理			
事業所写真				
問合せ先窓口	部署名	総務部		
	担当者名	阿部隆男		
	連絡先	電話番号	0438-30-2071	
		FAX	0438-30-2077	
E メールアドレス		abe.takao@kazusa-cs.co.jp		

7.1.2 技術情報

技術名称	直接溶融・資源化システム			
技術の分類	ガス化溶融			
目的・用途	資源選別後の多様なごみを溶融			
特長	ごみを高温溶融し、スラグ・メタルに再生			
設備、製品等の写真、イメージ				
処理フロー図				
廃棄物の種類	一廃	可燃ごみ	受入条件、形状	
	一廃	汚泥	受入条件、形状	
	一廃	その他(不燃ゴミ)	受入条件、形状	資源選別後
	産廃	その他(紙くず等)	受入条件、形状	
供給資源・製品	スラグ		形状	
	メタル		形状	

アピールポイント	廃棄物等排出者側のメリット	例) 処理料金、買取料金、環境負荷削減効果、等	スラグ、メタルは埋立処分されず、新たな資源としてリサイクル可能 スラグ: 路盤材等として活用 メタル: 製鉄用資源として活用
	製品購入者側のメリット	例) 環境負荷削減効果、製品の品質、販売価格、等	上記資源を安価に購入 購入価格: 約10円/t

### 7.1.3 実績情報



	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	一廃(可燃ごみ)	104,162	104,111	t
	一廃(不燃ごみ)	2,209	1,432	t
	一廃(汚泥)	4,289	4,472	t
	産廃(可燃ごみ他)	209	254	t
受入可能量	一廃、産廃	-	450	t/日
販売実績量の推移	スラグ	12,118	8,731	t
	メタル	1,454	1,106	t
主な調達先	ごみ: 一般家庭及び事業者(自治体経由)			
主な供給先	スラグ: 自治体、土木業者他   メタル: 製鉄所他			

## 7.2 リファインバース株式会社

### 7.2.1 事業者情報

名 称	リファインバース株式会社			
本社住所	〒103-0005	東京都中央区日本橋久松町 4-10 イマス日本橋福山ビル 5F		
資本金、出資金	300,000 千円			
従業員数	40 人			
設立年月日	平成 15 年			
URL	<a href="http://www.r-inverse.com">http://www.r-inverse.com</a>			
事業概要	従来廃棄処分されていたオフィス等で使用されるタイルカーペットを、素材ごとに分離・回収する技術を確認し、再資源化された再生樹脂原料を再びカーペットなどの生産原料として提供するリサイクルシステムを構築。焼却処分や埋め立て処分ではなく、マテリアルリサイクルを実現し、環境負荷の軽減に貢献する仕組みを作り上げています。			
事業所写真				
問合せ先窓口	部署名	営業部		
	担当者名	中路 敦之		
	連絡先	電話番号	03(5643)7890	
		FAX	03(5643)7891	
Eメールアドレス		info@r-inverse.com		

### 7.2.2 技術情報

キーワード	タイルカーペット、再生塩ビ、再生ナイロン、再生樹脂		
技術名称	再生樹脂製造技術		
技術の分類	その他( 切削 )		
目的・用途	再生塩ビは、タイルカーペットメーカーや建材メーカーなどでバージン塩ビの代替として使われています。		
特長	構成素材ごとに分離することで高品質なリサイクル樹脂の製造をしております。バージン塩ビとの比較では 50%程度の価格となっております。		
設備、製品等の写真、イメージ			
処理フロー図			
廃棄物の種類	産廃	廃プラスチック類 (PET除く)	金属等の異物の混入がないこと、バックキングが塩ビであるもの
供給資源・製品	再生塩ビ		形状 粉体
アピールポイント	廃棄物等排出者側のメリット	例) 処理料金、買取料金、環境負荷削減効果、等	・埋立処分されず新たな資源(再生塩ビ)としてリサイクルが可能。排出者はCSR(社会的責任)を向上することができます。CO2 排出量の削減と枯渇性資源の節減による環境影響の抑制に貢献できます。
	製品購入者側のメリット	例) 環境負荷削減効果、製品の品質、販売価格、等	・樹脂製造時におけるエネルギー消費、CO2 発生も大幅に抑制できるために再生原料の使用量の増加は環境に対してプラスの効果をもたらします。(バージン塩ビと比較して CO2 90%削減) ・バージン塩ビと比較して価格は約 50%程度

7.2.3 実績情報

	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	使用済みタイルカーペット	14,196	14,858	t
受入可能量	使用済みタイルカーペット	-	17,783	t
販売実績量の推移	非公開			
主な調達先	産業廃棄物収集運搬業			
主な供給先	タイルカーペットメーカー、建材メーカー			
技術開発の実績 (過去 5 年間)	塩ビリサイクルカーペット及びその製造方法 3 社共同特許取得 (2011 年)			
設備投資の実績 (過去 5 年間)	非公開			
補助金等支援策の活用 実績(過去 5 年間)	過去 5 年間においては実績なし			

## 7.3 富津市水産加工業協同組合

### 7.3.1 事業者情報

名 称	富津市水産加工業協同組合			
本社住所	〒293-0011	千葉県富津市新富 93 番 7		
資本金、出資金	87,620 千円			
従業員数	3 人			
設立年月日	平成 3 年 2 月 1 日			
URL				
事業概要	<p>当組合は富津市の水産加工業者たちにより、加工品の原料となる原貝を安定的に供給すること、製造工程で排出される残渣を効率的に処理すること、組合員の生活および営業に寄与する様ざまな活動を行うことを目的に設立されました。加工過程で排出される貝殻残渣の処理は社会的意義のある重要な役割であり、以前は廃棄物として埋め立て処理されていた貝殻残渣を工業用石灰の代用品及び農業用肥料の原料とするリサイクル事業により社会に貢献することが可能になるとともに加工業者の処理費用を大幅に軽減し地域経済の活性化に寄与しております。</p>			
事業所写真				
問合せ先窓口	部署名	事務局		
	担当者名	岩本 哲		
	連絡先	電話番号	0439-87-8522	
		FAX	0439-87-8529	
E メールアドレス		futtukakokyo@aq.wakwak.com		



7.3.2 技術情報

キーワード	貝 貝殻 破碎 石灰 肥料 農業 暗渠			
技術名称	貝殻破碎			
技術の分類	破碎			
目的・用途	水産加工品の製造過程で排出される貝殻を破碎し工業用石灰の代用品、農業用肥料の原料製造を行います。			
設備、製品等の写真、イメージ				
処理フロー図				
廃棄物の種類	一廃・産廃	動物性残さ	受入条件、形状	むき身後の貝殻
供給資源・製品	製鉄用石灰の代用品。		形状	一定の粒度に破碎された貝殻。
	農業用肥料製造の原料。		形状	一定の粒度に破碎された貝殻。
アピールポイント	廃棄物等排出者側のメリット	例) 処理料金、買取料金、環境負荷削減効果、等	貝殻残渣は産業廃棄物として処理した場合と比較して、当組合で処理した場合にkgあたり15円ほど安価に処分することができる。	
	製品購入者側のメリット	例) 環境負荷削減効果、製品の品質、販売価格、等	当組合では貝殻残渣の処理に係る費用を受入側より徴収しており、破碎後の製品に関しては安価で供給しています。また、旧来の埋め立てによる処理のように廃棄場所の確保等の問題は存在しない状況です。	

7.3.3 実績情報

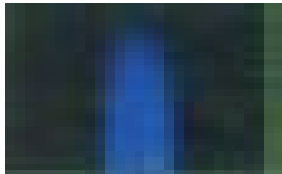
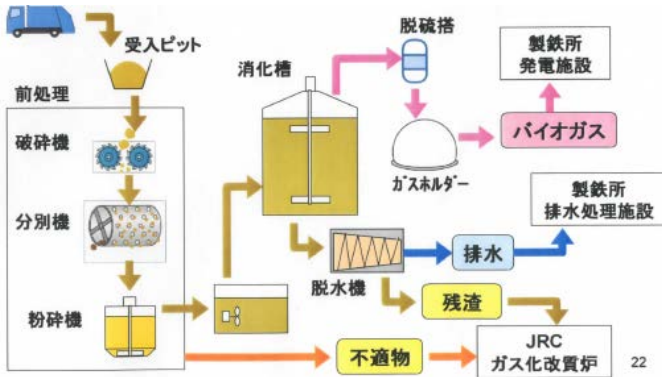
	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	貝殻残渣	1,275	796	トン
受入可能量	貝殻残渣	-	2,000	トン
販売実績量の推移	製鐵用石灰の代用品	931	744	トン
	農業用肥料の原料	200	36	トン
	その他	144	16	トン
主な調達先	組合加入の水産加工業者			
主な供給先	新日鐵住金株式会社、塚原農産株式会社			
設備投資の実績 (過去 5 年間)	平成 23 年度 自動給水装置 平成 21 年度 ホイルローダー 平成 21 年度 台貫 (トラックスケール)			
補助金等支援策の活用 実績(過去 5 年間)	平成 23 年度 自動給水装置 (県補助金 228,000 円 市補助金 111,000 円 ) 平成 21 年度 ホイルローダー (県補助金 2,463,000 円 市補助金 1,206,000 円) 平成 21 年度 台貫 (トラックスケール) (市補助金 1,00,000 円)			
その他実績	上記の利用形態以外にも、一部の貝殻残渣を農地の暗渠用に利用する目的で販売をおこなっていると同時に、東京湾の生態系改善等のプロジェクト等への供給もおこなっております。			

## 7.4 ジャパン・リサイクル株式会社

### 7.4.1 事業者情報

名 称	ジャパン・リサイクル株式会社			
本社住所	〒260-0835	千葉県千葉市中央区川崎町1番地		
資本金、出資金	1,200,000 千円			
従業員数	210 人			
設立年月日	平成 10 年			
URL	<a href="http://www.japan-recycle.co.jp">http://www.japan-recycle.co.jp</a>			
事業概要	1. 廃棄物処理業、2. 容器包装リサイクル法プラスチック再商品化事業、3. 食品廃棄物のリサイクル事業(バイオガス化)、4. 廃棄物処理に伴う精製合成ガスの製造・販売、5. 廃棄物処理に伴うスラグ等副産物の販売、6. 廃棄物処理装置・設備の運転、保守管理			
事業所写真				
問合せ先窓口	部署名	総務部		
	担当者名	草場孝志		
	連絡先	電話番号	043-262-4716	
		FAX	043-262-4786	
Eメールアドレス		kusaba@japan-recycle.co.jp		

7.4.2 技術情報

キーワード	メタン発酵			
技術名称	ピガダン方式バイオガスシステム			
技術の分類	メタン発酵(バイオガス化)			
目的・用途	廃棄物の処理、及びリサイクル			
特長	ガス化溶融炉との組み合わせ(カスケード処理)により、①残さを資源化、②埋立処分が不要			
設備、製品等の写真、イメージ	 <p>燃料ガス</p>			
処理フロー図				
廃棄物の種類	産廃	動物性残さ	受入条件、形状	受入禁止物; ①ガラス・陶器類、 ②金属類、 ③割り箸・竹串類、 ④粘着性塊状物、 ⑤薬物・薬品、 ⑥その他メタン発酵を阻害するもの
	産廃	汚泥	受入条件、形状	
	産廃	廃油	受入条件、形状	
	産廃	廃酸	受入条件、形状	
	一廃	その他(生ごみ、厨芥類)	受入条件、形状	
供給資源・製品	燃料ガス (メタンを主成分とするガス)		形状	供給先限定
アピールポイント	廃棄物等排出者側のメリット	例) 処理料金、買取料金、環境負荷削減効果、等	①廃棄物の最終処分場への埋立処分が不要	

### 7.4.3 実績情報



	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	動植物性残さ(一廃の生ごみ・厨芥類を含む)	非公開	非公開	トン
	汚泥	非公開	非公開	トン
	廃油	非公開	非公開	トン
	廃酸	非公開	非公開	トン
	廃アルカリ	-	非公開	トン
受入可能量	メタン発酵に適する産廃・一廃	-	非公開	トン/日
販売実績量の推移	燃料ガス	非公開	非公開	千Nm <sup>3</sup>
主な調達先	食品製造業者、自治体、等			
主な供給先	グループ企業			

## 7.5 東日本資源リサイクル株式会社

### 7.5.1 事業者情報

名 称	東日本資源リサイクル株式会社			
本社住所	〒292-0011	千葉県富津市新富 21 番地 1		
資本金、出資金	100,000 千円			
従業員数	39 人			
設立年月日	平成 10 年			
URL	<a href="http://www.earc.jp/corp/img/corp_head.jpg">http://www.earc.jp/corp/img/corp_head.jpg</a>			
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車両の集荷・分解・処理</li> <li>・リサイクル/リビルド/新品汎用パーツの製造販売</li> <li>・鉄、非鉄などの素材の製造販売</li> <li>・車両の処理再利用の実証研究等の受託</li> </ul>			
事業所写真				
問合せ先窓口	部署名	業務課		
	担当者名	武田敏雄		
	連絡先	電話番号	0439-80-1481	
		FAX	0439-80-1482	
E メールアドレス		t-takeda@earc.jp		

7.5.2 技術情報

キーワード	精緻な解体		
技術の分類	収集・分解・破碎		
目的・用途	高純度メタル・プラスチック・リサイクル		
特長	組立の逆手順で精緻な分別解体による部品・素材の回収		
設備、製品等の写真、イメージ	 <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px;">ライン</div>  <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px;">サイコロプレス</div>		
処理フロー図	<p style="text-align: right;">注記) カギカッコ内は、売却予定先</p> <p><b>処理フロー</b></p> <pre>     受入先 → 使用済み車輦(ELV) → 受入保管 → パーツ回収 → 液類回収 → 非金属回収 → 解体 → 鉄屑回収 → 圧縮成型     </pre> <p>輸送依頼先・自社 (各ディーラー、中古車販売店等より集荷)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① フロンガス → 破壊処理委託</li> <li>② 液類 (ガソリン・軽油・オイル・LLC) → 再生処理委託</li> <li>③ ガラス → 再生処理委託</li> <li>④ 樹脂 → 再生処理委託</li> </ul> <p>鉄スクラップ、エンジン → 売却</p> <p>銅 → 売却</p> <p>高純度鉄スクラップ → 売却</p> <p>パーツ売却</p>		
供給資源・製品	サイコロプレス	形状	
	スクラップ・非鉄	形状	
	リサイクルパーツ	形状	
アピールポイント	廃棄物等排出者側のメリット	例) 処理料金、買取料金、環境負荷削減効果、等	
	製品購入者側のメリット	例) 環境負荷削減効果、製品の品質、販売価格、等	全部利用者とのコンソーシアムにより、指定された品質基準の徹底化を遵守実施。
	その他	例) 受賞歴、施設見学受入者数、等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全部利用者へのプレス品供出による表彰受賞 (TH及びART)</li> <li>・見学者 H25年11月末時点 5,361人</li> </ul>

### 7.5.3 実績情報

	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	ELV集荷	非公開	非公開	台
	ELV解体	非公開	非公開	台
受入可能量	ELV解体(三交替時)	-	非公開	台
販売実績量の推移	プレス(全体)	非公開	非公開	t
	スクラップ	非公開	非公開	t
	海外コンテナ	非公開	非公開	t
主な調達先	各ディーラー			
主な供給先	新日鐵住金(株)君津製鐵所他			
設備投資の実績 (過去 5 年間)	平成 22 年 1 月 解体機導入			